

2020年1月23日
東日本旅客鉄道株式会社
横浜支社

南武線平間駅前踏切の遮断時間短縮について

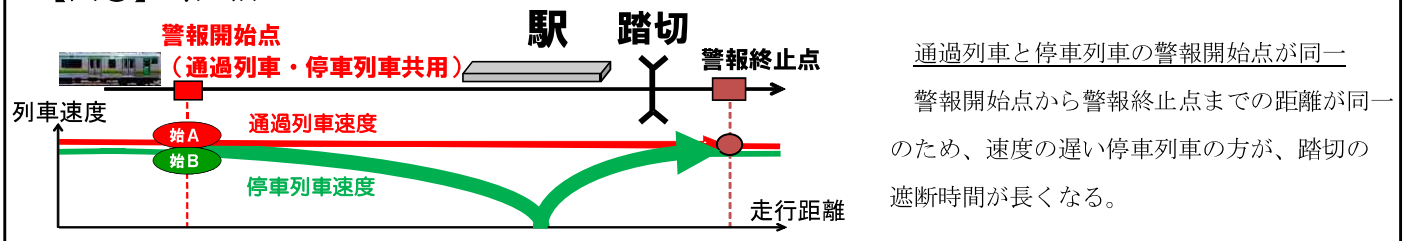
JR東日本では、踏切障害事故を着実に減少させる取り組みとして、踏切の統廃合をはじめ、360度の視認性を確保できる全方位警報灯などの設備改良、警察署等と連携した「全国交通安全運動」や「踏切事故0（ゼロ）運動」などを継続して行ってきました。

このたび、南武線平間駅構内にある「平間駅前踏切」（川崎市中原区田尻町16）において、下り列車に対する「踏切警報時間制御装置」（以下、「賢い踏切」）を導入することで、停車列車に対する踏切の遮断時間を短縮します。

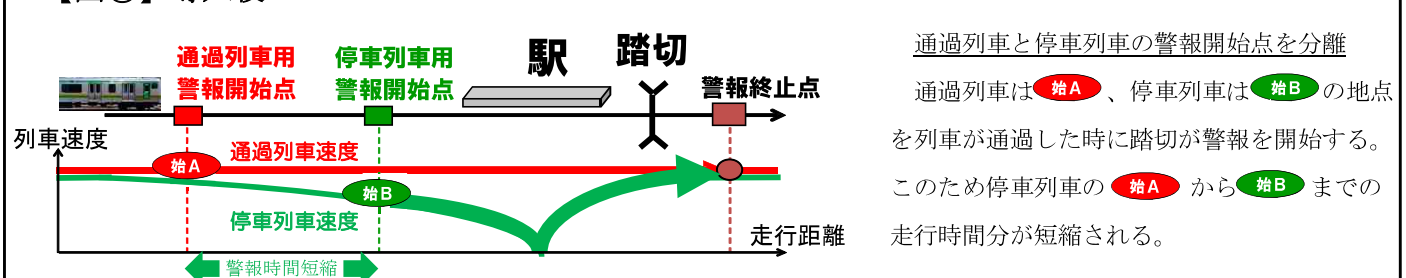
1. 「賢い踏切」とは

従来の踏切では通過列車と停車列車が警報開始点を共用しているため、駅の前方に踏切がある場合、停車列車に対する遮断時間が減速や停車に要する時間分、通過列車の遮断時間より長くなってしまいます。（図①）。「賢い踏切」を導入することで、通過列車と停車列車を判別し、警報開始点を変えることにより、停車列車に対する踏切の遮断時間を短縮することが出来ます（図②）。

【図①】導入前



【図②】導入後



2. 平間駅前踏切への「賢い踏切」の導入について

平間駅の下り列車の現在の停車位置のまま「賢い踏切」を導入した場合、列車の停車位置から踏切までの距離が近い（約 18m）ことから、「賢い踏切」のシステムによるブレーキ制御が原因で通常の列車運行が阻害されてしまうため、列車の停車位置を約 10m 川崎方に移動したうえで、導入することとします。



今回の改良により、朝の通勤時間帯 1 時間当たりで数分程度の改善効果を見込んでいます。
(実際の効果は日々の運行状況や列車の速度等により変動します)

◆導入時期

2020 年度末(予定)